

日本赤十字社から感謝状、有功章が贈呈 市内事業者、行方市赤十字奉仕団、奉仕団員

日本赤十字社から、吉藤運送株式会社へ感謝状が、霞観光株式会社、株式会社久力製作所へ銀色有功章が、それぞれ贈られました。感謝状、有功章は、長年にわたり日本赤十字社へ支援を続けられた企業に贈られるものです。日本赤十字社に寄せられた社資（寄付）は、日本赤十字社による災害時の救護活動や被災地支援、救急法講習など、地域と社会を支える人道活動に活用されています。



▲（写真）①吉藤運送株式会社
②霞観光株式会社
③株式会社久力製作所



▲（写真）行方市赤十字奉仕団の皆さん

また、行方市赤十字奉仕団と奉仕団員 11 人に、金色有功章が贈られました。奉仕団は、長年にわたり地域に根ざした活動を展開し、災害時の支援活動への備えをはじめ、地域の健康増進、募金活動に積極的に取り組むなど、多岐にわたる活動で地域社会に貢献しています。

日本赤十字社 金色有功章			
荒井 淑子	渋谷 和子	椎木 淑子	羽生 悦子
永作 みさを	新堀 久子	千ヶ崎 廣子	平山 和枝
小野澤 恵子	参宮 玉江	中田 洋子	※敬称略

セリ・イチゴが茨城県銘柄産地指定の更新 JA なめがたしおさい

5月28日（木）、鉾田合同庁舎で茨城県銘柄産地指定証交付式が開催され、JA なめがたしおさい管内の「セリ（行方市・潮来市）」と「イチゴ（行方市玉造地区）」が、指定の更新を受けました。この2品目は、平成5年以来長年にわたり銘柄産地指定を維持し、地域を代表する特産品となっており、その品質の高さは多くの方々に評価されています。



▲（写真）銘柄産地指定を受けた県、市および出荷組織の関係者



▲（写真左から）石川タ香里校長、石間克彦代表取締役

学校備品を北浦小学校へ寄贈 株式会社北浦商運

6月11日（木）、株式会社北浦商運から北浦小学校へ卓上製氷機やデジタル身長計等の学校備品が寄贈されました。贈呈式に訪れた石間克彦代表取締役は「子どもたちの安全や健康、学習環境のより一層の充実のために活用していただきたい」と寄贈への思いを寄せました。

大豆の苗植え体験 家族で大豆を育てよう! in なめがた

6月14日(日)、「家族で大豆を育てよう in なめがた」が開催されました。この取り組みは、市と大塚製薬株式会社が提携している「食と農と健康に係る包括連携協定」により実施されたもので、本年度で10回目の開催となりました。今回は17組54人が参加し、大豆の苗植え体験のほかに、食材に関する講義やジャガイモの収穫体験も行いました。秋には、今回植えた大豆とサツマイモの収穫を実施する予定です。



▲(写真上) 関係者によるテープカットを実施
(写真下) 助手席側に施されたラッピング

ラッピングトラックで市の魅力を発信 行方運送株式会社

6月17日(水)、麻生公民館で、焼き芋、霞ヶ浦の風景、鹿島アントラーズのロゴなどがデザインされたラッピングトラックのお披露目式が行われました。このトラックは、行方運送株式会社が地域貢献の一環として製作したもので「動く広告塔」として全国を走行し、市のPRを行います。熊谷茂穂社長は「市の知名度向上と地域経済の活性化につながるよう、社員一丸となって取り組んでいきたい」と語っていました。

行方市 SDGs 推進アドバイザーを委嘱 茨城大学 野田真里教授

6月19日(金)、SDGsに寄与する取り組みを推進するため、茨城大学の野田真里教授に行方市 SDGs 推進アドバイザーを委嘱しました。本市は、持続可能なまちづくりを目指しており、野田教授には市の取り組みが地域特性に合ったものになるよう、専門的な見地から意見や助言をいただきます。令和元年10月から引き続いての委嘱となり、本年度も継続してSDGsへの理解を深める取り組みを行っていきます。



▲(写真左) 野田真里教授



▲(写真左から) 飯嶋直人会長、麦山岳男校長

図書カードを玉造小学校へ寄贈 なめがた創生会

6月19日(金)、なめがた創生会から玉造小学校へ図書カードが寄贈されました。この寄贈は、子どもたちに本を読んでもらいたい、特色ある学校づくりを進めてもらいたいとの思いから始まりました。平成30年度から市内の小・中学校7校へ順次寄贈いただいています。寄贈していただいた図書カードは、子どもたちの学びや読書活動の一層の充実に活用させていただきます。

のぼり旗の設置と街頭キャンペーンを実施 第76回社会を明るくする運動

6月25日（木）、なめがた地区保護司会・行方市更生保護女性会により、第76回社会を明るくする運動の推進にあたって、のぼり旗が各庁舎と各公民館に、横断幕が麻生庁舎とサポートセンターに設置されました。また、7月4日（土）には、ベイシア玉造店で街頭キャンペーンが行われ、北浦童太鼓による演奏や玉造工業高校のウエイトリフティング部によるパフォーマンスが行われ、啓発用品の配布が行われました。本運動は、犯罪や非行の防止と更生への理解を深め、安全で安心な地域社会を築こうとする全国的な運動となっています。



▲（写真）①麻生地区 ②北浦地区 ③玉造地区
④街頭キャンペーンであいさつをする茂木功会長



▲（写真）北浦小学校で実施した際の様子

思いやりの心や人権尊重の大切さを学ぶ 北浦小学校・麻生小学校・麻生東小学校

6月26日（金）、6月30日（火）、7月7日（火）の3日間、市内の小学校で人権教室を行いました。本市の人権擁護委員が講師となり、子どもたちにとって身近な内容のDVDを鑑賞してもらいました。そして、その感想や意見を出し合い、思いやりの心や人権尊重の大切さについて理解を深めました。本年度も、市内全ての小・中学校で人権教室を行う予定です。

どうぶつとみんなのいえ日記

アルパカ

▶ 名前 ジャル（オス）
クルミ（メス）



「アンデスの黄金」と称される滑らかで美しい毛

毎年8月1日は「全国アルパカの日（National Alpaca Day）」です。世界のアルパカの約8割が生息する、ペルーのアンデス高地におけるアルパカの歴史は、約6,000年前にさかのぼります。インカ帝国時代には、すでに家畜化されており、その滑らかで美しい毛は「アンデスの黄金」と称され、当時の王族や貴族の間で金銀をしのぐ価値があると重宝されていました。この記念日は、何千年も前から人々の生活を支え続けてきたアルパカへの敬意とその文化を後世に伝えるために、2012年にペルー政府が制定したものです。アルパカは、南米・アンデス山脈の標高3,000～5,000メートルという非常に高い場所で暮らしています。

昼夜の寒暖差が激しく、冬はマイナス20度にもなる過酷な環境を生き抜くため、あの抜群の保温性を持つ細くて暖かい毛に覆われているのです。過酷な寒さに耐えられる立派な毛を持つアルパカですが、その分、高温多湿な日本の夏は大の苦手です。当園のアルパカたちも熱中症を防ぐため、夏を迎える前の5月頃に、毛刈り（サマーカット）を行っています。分厚い毛を脱いだアルパカの体は、驚くほどスリムです。このスッキリとした涼しげな姿を見られるのは、夏の時期だけです。

臆病な面もありますが、優しく接してあげてください

アルパカは少し臆病な面もある動物です。大きな声を出したり、走って近づいたりすると驚いてしまいます。ゆっくり、優しい声で接してあげてください。ふれあうときは、アルパカが嫌がる頭や後ろ足、お尻などは避け、首の横や背中を優しくなでてください。

営業情報など施設の詳細は、右のQRコードからホームページをご確認ください。当園では、動物の魅力を感じ考え学習できる場を提供していきます。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

【問い合わせ】霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ ☎ 0299-55-3928

霞ヶ浦
どうぶつと
みんなの
いえ
place for
everyone



担当飼育員
川上 絵理さん

